

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000112		
法人名	株式会社 ワークサポート		
事業所名	グループホーム ことぶき		
所在地	北見市高栄西町7丁目2-2		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和2年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の事業所として、毎年運営推進会議を兼ねた野外昼食会をはじめとした地域住民との交流・親睦を目的とした町内会主催の焼肉パーティー等に数名の入居者様にご参加頂く事を接局的に実施して参りましたが、今年はコロナウイルスの感染拡大の影響で、新年度の運営推進会議の開催も実施しておりません。徐々に国や道の緊急事態宣言の解除を受けて周りの動向に目を向けながら、入居者様の安全・安心を第1に徐々に実施して参りたいと考えております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195000112-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年11月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームことぶきは、北見市高栄地区住宅街の中の商業地域に立地する2階建て1ユニットになっています。今年度、外壁の塗り替えや施設内の照明・温水器の取り替えとともに、2階にエアコンを設置するなど環境整備に努め、居心地良く過ごせるよう配慮されています。1階のリビングは広く日当たりも良好で開放感があり、利用者は日中ほとんどをリビングで過ごしておりコロナ感染対策として換気にも注意を払い、職員は消毒・マスク着用の徹底を図り意識を持って利用者を支えています。嚥下体操や歌を歌う等を日課としモップがけや食器下膳・家庭菜園の水やり等、利用者の持つ力を活かし出来るだけ自立した生活に繋がるよう取り組んでいます。又、外出が難しい状況の中で気分転換として室内で身体機能に合わせたレクリエーションを行ったり、栄養バランスに配慮した食事の他、駐車場で野外昼食会や季節に応じた行事食・出前をとるなど、多彩で利用者の楽しみとなっています。職員同士の信頼関係もあり、管理者・職員は「笑顔と楽しさにあふれる」「思いや願いが尊重される」「穏やかで安全な」「地域の中でその人らしく暮らせる」場所を目指し、家族、地域の方と共に支えています。という理念の基、利用者の思いに寄り添いながら笑顔が見られるケアを常に心がけ支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はことぶきの顔である為、事業所や休憩室に掲示し、常時スタッフ一人一人が理念に基づいたサービス提供を心がけてはいるが出来ていない事もある。「思いや願いが尊重される」等個々に寄り添う支援を考えていかなければならない。	理念は玄関・事務所等の目に付きやすい所に掲示し、パンフレットにも明記し、浸透を図っています。職員は今回の外部評価での自己評価を通じて振り返り、日々理念に基づいたケアを心がけ取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会始め外部を招いた野外屋食会や避難訓練等の声掛け、町内会主催の総会や懇親会、花見等へ参加し交流を図っているが、十分とは言えない部分もある。地域に貢献する為の「ゴミ拾い」等のボランティア活動も必要と考える。	コロナウイルスの影響で今まで続けてきた交流行事が中止となっていますが、今後も地域密着型として相互交流を通じて地域との繋がりが維持できるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の運営推進会議を通して入居者様の状況を知ってもらったり、ことぶき通信を発行して取り組みを紹介する等している。行事の中でも、触れ合う様努力しているが発信不足である。発信・声掛け等により、一部継続してご家族の参加も見られる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では多種・多様な機関の参加をお願いしている。消防や警察等災害や防犯の観点から貴重なご意見を頂いているが、未だ反映されていない点もある。今後の課題として、謙虚に耳を傾けながら、ことぶきの運営・活動に活かしていきたい。	運営推進会議は利用者家族・市職員・民生委員・警察・消防職員・高齢者相談支援センター職員等の多彩なメンバーで開催していますが、今年度コロナウイルスの影響で会議の開催が困難な状況になっています。	会議の開催が困難な状況の中でもメンバーに事業所の取り組みや運営状況がわかる工夫をし、サービス向上に活かせるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内や定期発行の通信を直接担当者に手渡したり、顔の見える関係を構築している。介護認定の申請や運営規定、重説の変更、給付や加算の相談などを定期的に行っている。	市担当者とはその都度電話等で状況報告、相談しながら連携を密にとり協力関係を築いています。市より観賞用の菊が十日間限定で借りられ利用者の楽しみとなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、職員の見える場所に掲示し、常にスタッフが意識する事で、拘束0のケアを目指している。業務の中で気になる事があればミーティング等で話し合い周知している。身体拘束の研修は実施しているが、繰り返し、実施する事でスタッフ全員が理解をより一層深める必要がある。夜間眠らない入居者には気の済むまで見守り、無理やり居室へ誘導しない対応を取る。	身体拘束廃止委員は管理者・管理者代理・計画作成担当者・介護主任・介護職員・運営推進会議の構成員となっています。職員はミーティングの中で事例をあげて話し合いや研修を行うと共に、身体拘束廃止に関する指針に沿って、職員はなぜ身体拘束がいけないかを十分理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会の報告は年4回、運営推進会議をかねて行っています。今年度は運営推進会議の開催が困難な状況になっていますので、身体拘束廃止委員会の指針に基づいて定期開催に取り組まれるよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の生の声を傾聴し、他の職員とのコミュニケーションを計る事で、虐待に繋がらない方策を心掛けている。日々の入居者様の体調等に注意し、防止に努めている。会話や身体介護の場面でも常に入居者様目線のケアを意識し、優しく、暖かいケアを心掛けている。外・内部研修で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ことぶきでは実際に1名の入居者様が成年後見制度を利用している。必要に応じて関係者と話し合い、活用できる支援を実施している。昨年北見市の後見人の研修生1名の受け入れも実施。今後研修の機会も設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居者様・ご家族に運営規定や重説等で十分に説明し、納得頂いた上で契約している。ことぶきでの生活やスタッフの対応方法、受診等生活面、利用料や料金改定等金銭に関する事も、懇切、丁寧に説明する事を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族等への通信を通じて理解を得られる様に心掛けている。面会に来る家族には意見や要望を伺う。遠方等で面会が難しいご家族には・電話や手紙等で伺う。家族訪問時には日頃の様子を伝える。外部評価のアンケート結果を反映於できる様務める。	毎月家族に事業所便り「ことぶき通信」を送付し、日常の様子を伝えています。さらに、電話や面会時に状況を説明し、希望や要望を聞く機会としています。遠方の家族にはメールや手紙を活用し、利用者の様子を報告しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の業務の中でも、スタッフの意見や要望には耳を傾け反映される様務めている。その都度必要事項はミーティングや職員間でも意見交換している。法人の代表者や役員も参加している。予算が伴う場合、反映されない場面もあるが、努力して、反映された事例もある。	月1回のミーティングや日々の業務の中で意見を聞くと共に、今年度の外部評価での自己評価を職員全員で取り組み管理者がまとめ、そこで得た職員の気づき等を運営に反映できるよう努めています。職員は研修を兼ねて系列のグループホームの現場シフトに入り、介護を通じてケアの向上に役立っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の話聞き、働き方や、やりがい等について聞く機会を設けている。やりがいなどは個々に異なるが、管理者は個人の努力や実績、勤務状況等を代表者に伝え、各自が向上心を持って業務に当たれる様職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を回覧して出来るだけ多くのスタッフが研修に参加出来る様呼び掛けを行っている。業務時間内でもシフトの調整をして、研修に参加出来る機会を設けている。外部研修に参加して得たケアの方法を職員間で実施して、スキルアップを計っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今までも、包括センターが主催する交流会やグループホーム協会が主催する研修会やボウリング大会に参加して交流を深めてきたが、昨年経営者が同じグループホーム2事業所との交流会を実施。今後も交流の機会を増やしたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困り事や要望をきちんと伝え易い雰囲気の中で話しが出来る環境作りに努めている。本人が話し易い様、言葉使いや話す口調に注意している。生活歴を知った上で、係る事はより入居者を理解する事に繋がる。ニーズに応えられる様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安や要望に耳を傾けて、家族が期待している関わり方を知る事が大切と考える。困り事や要望を聞いて、本人と家族の間に相違があった場合は解決できるまで、十分な時間を掛けて調整していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスは何か、本人と家族が必要としているサービスに食い違いは無いかなどを見極め、グループホーム以外のサービスも含めて対応する事を心掛けている。毎日の生活で予想できない事態が起きる事も予め説明し、理解して頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼してもらえる様に接している。自分のできる事や、出来る事と一緒にする事で信頼関係を構築している。本人の生活習慣、人との関わり方、今までの過ごし方を聞かせて頂く。家族の心を持って接し、アットホームな雰囲気づくりに務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信や電話をしてこまめに日々の様子を伝えたり、誕生日にはプレゼントを用意してもらい、本人の喜ぶ様子を写真に収め伝え、本院と家族の関係の橋渡しができる様務めている。面会の際は近況を伝え、自室やリビングで懇談し易い雰囲気づくりに務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の床屋さんには定期的に訪問してもらう等交流できるよう努めているが、馴染みの人も高齢になり、居なくなっているのが現状。	利用者や馴染みの人の高齢化に伴い、これまでの関係継続が難しくなっている中で、家族と法事に出かけたり、好きな相撲番組を見たり趣味の編み物が続けられるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士が楽しめる様支援したり、ゲームや行事等で関わり合いを持てる様務めている。他者との関わりが難しい方には、スタッフが間に入って会話する事で孤立する事なく、関わり合える場を作る様務めている。お菓子作りは現在食中毒の関係もあり、実施していないが、希望に応じて実施したい。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者契約が終了し、利用者が他の事業所に移っても必要に応じて相談支援等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々どの様に過ごしたいか希望や思いに応えられる様努力しているが、設備や人員の関係上困難な事も多い。出来るだけ希望に添える様、スタッフ間で検討している。自分の意思が伝えられる人には、その人が衰えない様声掛けする。上手く伝えられない人には、話し易い雰囲気を作る様務める。	利用者と共に過ごす時間や日常生活の中で利用者の表情や会話などから意向の把握に努め、思いに添ったケアに取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、支援先からの情報を確認する様にしている。日々の会話の中で、生活歴や習慣等聞きながらサービスに取り入れる事が無いか、検討している。生活歴や環境を知る事で、性格や人格を理解する事に役立つ。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録やスタッフ間での情報交換、本人との会話やケアを通して現状の把握に努めている。その日の体調に合わせて休んでもらう。何時もと違う場合は記録にて全スタッフに周知するよう努めている。本人の生き甲斐ややる気を見出し、活かせる生活を心がける。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や現在の課題を踏まえ、本人がより良く暮らせるための方法を、家族やスタッフ、関係者との話し合いを基に、介護計画を作成している。ミーティングや日々の稼働の中で話している。チームで話し合う事で、それぞれの知らない部分を知るきっかけになる事もある。	利用者・家族の希望を把握し、計画作成担当者が職員の意見や日々の生活記録・申し送りを参考に経過記録を作成し、モニタリング・サービス担当者会議を行い3ヶ月毎に状況に応じた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても分かり易く、必要な情報がきちんと書かれている記録となる様務めている。問題点となっている事を日々の業務やミーティング等で話合っている。記録の書き方は、時々見直しを掛けて検討する事が望ましい。その事で、より分かり易い記録になると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人にあった食事の対応や受診、外食等への同行必要に応じて対応している。訪問看護や訪問理容、地域の中でその人らしく生活できる様支援する。新たなニーズに対し、様々な機関を利用し、実現可能な情報を知る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護や往診、警察への協力要請、避難訓練等を実施し、安心して生活できるよう支援している。地域によって独自性があるが、町内会の総会や懇親会、花見等に参加して交流を持つ事で対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿った病院へ受診している。家族のみで受診される時、場合によって介護添書を添えて適切な医療が受けられる様配慮している。かかりつけ医には出来るだけ細かい情報を提供する事によって、正しい医療に役立つと思う。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診は事業所や家族が対応しています。4週に1回の往診や必要に応じて歯科、皮膚科の往診、週1回の訪問看護師により健康管理が行われ利用者の安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には気付いた事の報告・相談等細かい点についても話し合う機会にしている。体調面や精神面での相談・助言を頂き適切な医療が受けられる様務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期受診の他に緊急受診を希望する際、受け入れ可能な状態を作っておく。普段から協力医院や訪看の関係を円満にすべく、医師や看護師等と相談や情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針については家族に説明している。ミーティングでも取り上げ、外部講師を迎え、ターミナルに関する内部研修も実施し、スタッフは理解しているが、実際に終末期をどう迎えるか、定期的に本人、家族、医療関係者と相談し対応が必要。取り組みを開始したばかりで、もっと学ぶ必要あり。今年は3人の看取りをことぶきで初めて実施した所です。	入居者時に看取り介護の指針により説明し同意書を交わしています。状態の変化時に再度確認し利用者・家族の意向に沿いながら看取り介護に取り組んでいます。医師・訪問看護師と連携し意思統一を図るようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付ける必要あり。定期的な訓練は出来ていない。どのスタッフも対応できる様救命救急講習や内部研修を実施する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、非常時に備えている。停電・断水を想定した訓練を実施している。課題となっている事を、今後も訓練を積み重ねながら、実践力を身に付けていく。昨年の10月15日に実施。スタッフが2名初めて参加。危機管理において非常に大切な為、今後も継続する。	避難訓練にあたり近隣住民にチラシをポスティングし情報を知らせ参加を呼びかけています。歯科医院や交番が避難場所としての協力体制が出来ています。停電時のポータブルストーブやヘッドライト、衛生用品などの準備、備蓄食料の点検を行っています。	新型コロナウイルスにより消防署立会いのもとでの避難訓練は困難ではありますが、事業所内での自主訓練により利用者の安心・安全に繋がるよう年2回以上の避難訓練実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けは一人一人言い方が違うので、より心持が良くなる伝え方を工夫している。常に家族の様な温かい心を持って接する様心掛けしている。一人一人の人格を尊重し、その人にあった声掛けを行っている。	トイレ時には気をつけて耳元での声掛けや戸を閉めての介助を行い羞恥心を感じさせないように心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、体全体で利用者を理解する様心掛けている。希望に沿うよう出来るだけ努力しているが、出来ない事もある。急がない様声掛けして自己決定し易い様、質問の仕方に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを観たり、将棋をしたり、手紙を書く等出来るが、実際には難しいと感じる。体調やペースに合わせてリビングで過ごす、自室で休む、散歩に出かける等出来る限り希望に沿った支援を心掛けているが、職員の業務が優先してしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切りや、髪の毛の手入れ等気を付けて見ている。着たい服を選んで頂いたり、髭剃りや整髪、口腔等を支援している。定期的に近所の床屋さんに散髪してもらおう等、身だしなみに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々が食べ易い形態で提供できるようにし、楽しく美味しく食べて頂いている。食事の準備や後片づけ等は衛生面の事であり出来ていない。スタッフも同じ食事を食べる事で食べ辛い物を把握し、個々にあった形で提供する様務めている。	現在の献立は以前に外部業者からの取り寄せていた食事の献立を活用し栄養バランスの良い食事が提供されています。調理専門職員が食材の下準備をして介護職員の調理時短に繋がっています。四季を感じられるように栗ご飯や野外昼食会では焼きそば、焼き鳥、イベント時には出前を取ったりと楽しい食事になるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じた支援をしている。カロリー計算されたメニューでバランスの取れた食事を提供している。毎日、食事摂取量や水分量を記録し、水分不足にならない様配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕口腔ケアを実施している。介助の必要な人はスタッフが介助して対応している、定期的に洗浄剤で洗浄を行っている。歯の状態を確認し、必要に応じて歯科受診出来る様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排尿する様支援している。トイレの声掛けをこまめに。その事で排泄の自立を可能にする。失禁の無い方には、布パンツで対応し、紙パンツの使用を減らす様、勤めている。	排泄チェック表により、声掛け誘導で出来るだけトイレでの排泄に努め、不快な思いをさせないよう心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時お白湯を飲んで頂く。お昼に寒天ゼリーを摂って頂く。途中9時と2時に飲水して頂く。体操を朝、夕実施し、出来るだけ、体を動かして頂く等、便秘予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を目途に本人の状況や体調にも考慮し、実施している。入浴剤を使用する等、リラックスして楽しんで頂ける工夫をしているが、職員の都合での入浴になっている事もある。	週2回を基本とし、利用者の希望や体調を考慮し無理強いすることなく2人介助にも対応しながら入浴支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や水やり、歌や、ゲーム等で楽しみを持ち、気候に合わせて空気を入れ替えたり、布団を干す等、気持ちよく休める様支援している。体調の悪い時は、日中も簡易ベッドや自室のベッドで休んで頂く様支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば、特に気を付けて観察し、誤薬の無い様声掛けあてて防止に努めている。薬の変更がある時は申し送り等でスタッフ全員に周知対応している。スタッフ全員が薬の内容を理解する様務めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ている人もいるが、全体的には出来ない。本人が進んでやりたい事があれば、して頂く。何もない場合は、やりたいことを引き出す努力をする。もっと外出の機会を作っていく事が必要。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院以外ほとんど外出の機会が無い、たまに家族と過ごすため、外泊している人もいたが、今は殆んどいない。お誕生日等に希望する人には外食支援を実施しているが、もっと簡単に、ショッピングや近郊のドライブ等外出支援を行うべきである。今年はコロナの関係で難しい。	天気の良い日にはプランターの水やりや畑の苗植え、収穫などを行い、気分転換になっています。法事や家族と一緒に墓参りに出掛ける利用者もいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方はいないので、事務所で預かり、本人の希望によって、使える様支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その都度対応している。手紙を書ける方は、書いた手紙を預かり、出すよう支援していたが、今は殆んど手紙を書く方は無い。ご家族から電話があった場合は本人に代わる様支援しているが、今は、一人程度。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を保つ様心掛け、居心地よく過ごして頂けるよう努めている。飾り付けを季節ごとに楽しい雰囲気を出し、落ち着いた居心地や空間となっている。安全第一を心掛け、四季の変化に応じて展示物を変えている。	季節ごと、行事の飾り付けや観賞用の菊などを飾り、四季おりおり趣のある雰囲気となっています。今年度は2階にエアコンを設置し過ごしやすい環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブルを置き、本人の希望で移動したり、楽しく会話ができる様、なるべく気の合う同士を近くの席にする様配慮している。個々にプライベートルームはあるが、人によっては自室で独りになる人もいるが、転倒の危険のある人はリビングで過ごして頂く。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の写真や手作りの物を飾って楽しんでもらっている。本人や家族の思いで揃えもらった物、気に入っている物を自由に持ち込んで、本人が暮らしやすい対応を心掛けている。家族の訪問や宿泊については、本人の居室で過ごして頂いている。	居室にはクローゼットが備え付けられ、寝具や筆筒、ソファなどが持ち込まれています。編み物をしたり新聞を取りに行ったりと今までの生活習慣が途切れないように心掛けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はして頂いている。危険が伴う場合は代行している。利用者一人一人が他の人を思いやる気持ちを持ち続ける事が出来る様心掛けている。自分の居室が分かる様、表札をかけている。新聞取り、カーテン開閉、食器下膳、家庭菜園の水やり、洗濯物干し片付け等一人一人に対して工夫して取り組んでいる。		